

4/2 神井

政府、不適切と明言せず

野党批判「表現の自由抵触」

政府は、陸上自衛隊が警戒するお支那じしと「反戦デモ」を例示した資料を記者向けに作成して、いた問題について、表現の自由を逸ぐする不適切な対応だったとは明言しない構えだ。防衛省の石川武報道官は1日の記者会見で「誤解を招く表現だったと考える」と述べたことを見ねた。

反戦デモを例示した陸自の資料を巡り、松野博一官房長官も31日の会見で「誤解を招く表現」と指摘。表現に慎重さを欠いたものの、全体として大きな問題はないとの見方を示した形

だ。野党は憲法21条が保障する表現の自由に抵触しかねない問題だとみて、追及を強める構えだ。

問題になったのは、陸上幕僚監部が2020年2月の記者会見で配布した資料。武力攻撃に至らぬたる例として、テロと横並びで「反戦デモ」を列挙。虚偽情報と判断した「報道」も取り上げた。陸自は記者からの指摘を受け、「反戦デモ」を「暴徒化したデモ」と修正した資料を再配布した。

いじ「石川氏は会見で「合法的に行われている場合も含め、一様にグレーゾーンの事態の例として記述してあった」と説明。「暴徒化したデモ」の意味については「合法的な反戦デモとは当然異なる」とした。

野党側は「グレーゾーン事態だけ得ない。表現の自由の一環だ」（立憲民主党の小川淳也政調会長）、「憲法違反だ」（共産黨の鈴田憲）「国対委員長」と批判

する。修正前の資料の扱いを経た（鬼木誠防衛副大臣）

者が誤った認識で廃棄したり、防衛省は「前回の誤解」としている。